

第54回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日時 平成28年3月6日（日）於
会場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【見つめよう！ 地域の力】 ～粹な心で豊かな暮らしを～



まちづくり



ひとづくり

いつでも、どこでも、だれでも学べる

大月市教育委員会



第54回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【見つめよう！地域の力 ～粋な心で豊かな暮らしを～】

2. 大会主旨

少子高齢化、核家族化、価値観の多様化等により、地域住民の連帯感や人間関係の希薄化が言われるなか、地域では、かつてのような住民どうしが共に支え合う地域社会を今の時代に合わせた形で再構築していくことが重要となります。それには、もちろん行政の役割は大きいですが、その地域で生活している地域住民や事業者の協力・連携が不可欠であります。

本大会では、今後、地域の問題として増加が見込まれる福祉・介護の分野にスポットをあてて、行政や事業者、地域の活動団体の取り組みを通して、一人一人が自分と向き合い、自分に何ができるか、地域で何ができるかを考えてみましょう。そして共に助け合い、互いに支え合い、ふるさと大月でいつまでも心豊かに暮らすことを目指し大会主旨とします。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成28年3月6日（日）午後1時30分 開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. シンポジウム（第1部：パネリスト発表 第2部：会場との対話「意見・情報交換」等）

生涯学習の実践と成果の活用、学習に踏み出すための情報の提供や交換から生涯学習への意欲を高める。

○コーディネーター

大月市立大月短期大学准教授 塙 武郎 氏

○パネリスト

- ・安藤 剛 氏（大月市社会福祉協議会地域福祉担当）
- ・奥村 恵美子 氏（ふれあい・いきいきサロン サロン アジサイ代表）
- ・中村 太一郎 氏（大月市 市民生活部 保健介護課介護予防担当）

7. その他

- ・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 ロビー）
各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）
中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）
- ・アトラクション 大型紙芝居（大月の民話を語りつぐ会作成の紙芝居を如月の会が朗読）

8. 時間設定	出 店	12:00～
	受付・開場	12:45～
	アトラクション	13:10～13:25
	開会行事	13:30～14:00
	シンポジウム	14:00～15:55
	閉 会	～16:00

★ コーディネーター

大月市立大月短期大学准教授
(東京大学教養学部 講師)



はなわ たけお
埴 武郎 氏

1974年北海道生まれ。専門は財政学、アメリカ経済、地域政策まちづくり論、教育政策。筑波大学大学院博士課程社会科学部研究科経済学専攻修了、博士(経済学)取得。途中、米国アメリカン大学(在ワシントンDC)、オレゴン大学大学院に留学、南オレゴン州立大学フェロー就任。八洲学園大学生涯学習学部専任講師、准教授を経て2014年より現職。東京大学、日本大学、國學院大學講師を兼務。文部科学省「教育財源確保策に関する勉強会」有識者会議メンバー。北海道、福島県等の自治体で地域活性化の政策助言を行う。著書に『アメリカの教育財政』『アメリカ経済とグローバル化』『北海道倶知安町におけるグローバル不動産投資と自治体経営』『北海道の池田モデル』ほか多数。

★ パネリスト 大月市社会福祉協議会
地域福祉担当



あんど う つよし
安藤 剛 氏

大月市社会福祉協議会に勤務し21年、地域福祉担当に配置となり3年が経ちます。現在は、平成25年3月に策定した「大月市社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画」に基づき事業に取り組む、その基本理念であります「みんなで作る ささえあいの福祉のまち大月」の実現を目指し地域福祉を推進しています。

今日は、日頃から地域において、社協と連携を図りながら実践している住民主体の福祉活動等を紹介し、会場のみなさんに知っていただきながら、自分たちの地域における今後の取り組みの必要性について、地域住民みんなで考える契機になればと思っています。

★ パネリスト ふれあい・いきいきサロン サロン アジサイ



おくむら えみこ

奥村 恵美子氏

笹子町民生委員原地区を担当してから、3期9年目になります。それからサロンアジサイの代表を受け継ぎ、先輩方と一緒に活動し、今年で10年目になります。毎月第2木曜日をサロンの日とし、会場は笹子公民館原分館を利用しております。

家の閉じこもりをなくし、人と関わり、大きな声で歌を歌い、体を動かす体操、手先を使う折り紙、頭を使うゲームなどをし、皆が元気に過ごせるよう頑張っています。一番の楽しみはお茶会です。急に皆の賑やかな声があちらこちらから聞こえてきます。平均年齢が80才過ぎと高齢になっております。皆健康で過ごせるよう「サロンアジサイ」を続けて行きたいと思っております。

★ パネリスト 大月市市民生活部保健介護課 (大月市地域包括支援センター)



なかむら たいちろう

中村 太一郎氏

介護保険制度が施行された平成12年に大学を卒業し、大月市社会福祉協議会に入社しました。在宅介護相談や地域福祉業務などに関わる中で、様々な方々の相談に応じたり、地域の方々と交流を深める機会を得て、20代の時にいい経験を沢山させていただきました。国家資格である社会福祉士を取得している私は、30歳で社会福祉協議会を退社し大月市役所に入庁しました。地域包括支援センターで、高齢者の介護相談や虐待相談、権利擁護支援、ケアマネジャー業務を行っています。

若い頃より野球が好きで、東海大甲府高野球部に所属している頃は甲子園を目指し青春時代を過ごしました。毎年、後輩達の試合観戦をし、甲子園に出場すれば追っかけ応援を続けています。はつらつとしたプレーを見る度に、ピンと姿勢が伸び初心の気持ちを取り戻させてくれます。

高齢化率が増加している大月市において、一人一人がいつまでも住み慣れた大月で暮らしていくために「地域包括ケアシステム」の構築に向け、日々取り組んでおります。本日は、皆さんと一緒に自分に何ができるか、地域で何ができるかを考えられる時間となればと思っています。

第54回大月市生涯学習推進大会 シンポジウム記録

■ 趣旨説明 【大月市社会教育委員 安藤 睦美】

ここで、シンポジウムの開始に先立ちまして、大会の経緯と主旨について、簡単にご説明いたします。

はじめに経緯についてでございますが、今大会は5回に渡る社会教育委員の会議において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について、社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会のテーマ「見つめよう！地域力」～粋な心で豊かな暮らしを～及び内容が決定いたしました。

続いて、大会主旨についてでございますが、お手元のプログラムに記載してありますとおり少子高齢化、核家族化、価値観の多様化等により、地域住民の連帯感や人間関係の希薄化が言われるなか、地域では、かつてのような住民どうしが共に支え合う地域社会を今の時代に合わせた形で再構築していくことが重要となります。それには、もちろん行政の役割は大きいですが、その地域で生活している地域住民や事業者の協力・連携が不可欠であります。

本大会では、今後、地域の問題として増加が見込まれる福祉・介護の分野にスポットをあてて、行政や事業者、地域の活動団体の取り組みを通して、一人一人が自分と向き合い、自分に何ができるか、地域で何ができるかを考えてみましょう。そして共に助け合い、互いに支え合い、ふるさと大月でいつまでも心豊かに暮らすことを目指し大会主旨といたします。



■ シンポジウム開始

【埴コーディネーター】

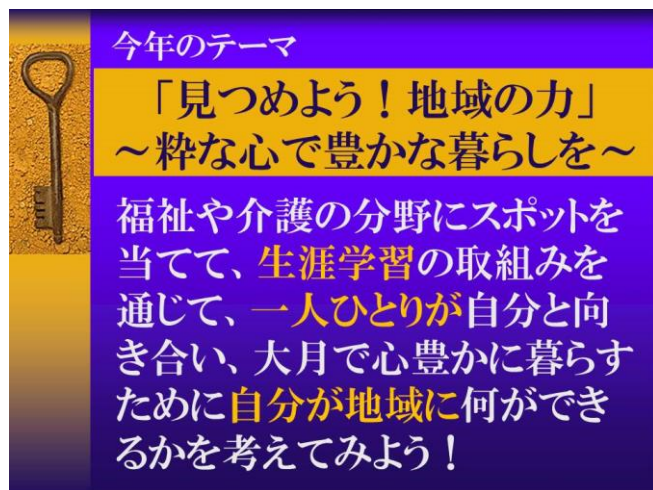
皆さん、こんにちは。大月市立大月短期大学准教授の埴と申します。本日はコーディネーターを務めさせていただきます。シンポジウムの進め方についてご説明いたします。シンポジウムは1部と2部に分かれておりまして、1部はパネリスト3名で各17分ほどの発表になります。時間で言うと1時間ほどで15時ぐらいまでです。2部はディスカッションになります。ステージ上の4人でディスカッションを行います。そして、その後、会場との対話、意見交換、情報交換等を行う予定ですので、皆さん感想ですとかご意見、提言などをいただければと思います。最後が15時50分と約2時間と長くなりますが、お付き合いいただきたいと思います。

第54回 大月市生涯学習推進大会	
シンポジウムの進め方	
第1部	パネリスト発表 (3名、各17分ほど) 14:00～15:00迄
第2部	ディスカッション、会場との対話・意見・情報交換等 15:00～15:50迄

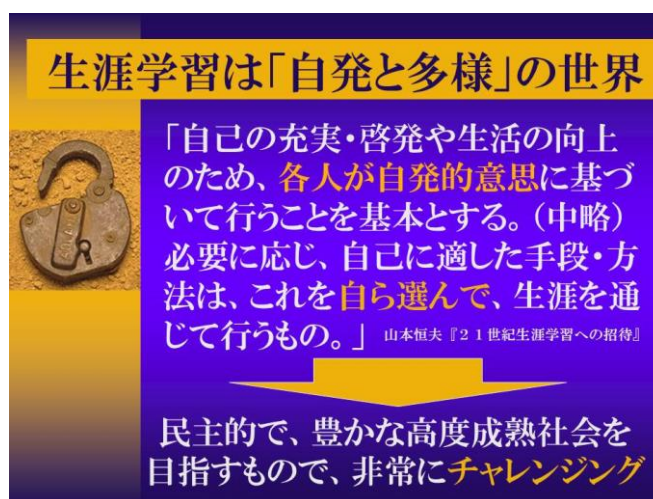
次に、冒頭私の方で問題提起をさせていただきます。これが正しいと言う訳ではありませんが、切り口とすれば、これは適切ではないかと言うものを用意させていただきました。画面をご覧ください。今回のテーマは「見つめよう！地域の力」～粹な心で豊かな暮らしを～です。お手元の資料にも記載してあります。福祉や介護の分野にスポットを当てて、生涯学習の取組みを通じて、一人ひとりが自分と向き合い、大月で心豊かに暮らすために自分が地域に何ができるかを考えてみようと言うことです。私がポイントになるところを黄色く示しました。生涯学習、一人ひとりが、自分の地域にです。

生涯学習とは、自発と多様の世界とされています。私の自己紹介にもありましたが、大月に来る前は横浜にあります八洲学園大学に8年務めておりました。その学長で、生涯学習と言えばこの人と言われる山本恒夫先生の言葉を引用しました。自己の充実・啓発や生活の向上のため、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とする。(中略) 必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものとしています。この話は非常に難しい話です。生涯学習という言葉は簡単で便利かもしれませんが、簡単に言いますと、一人一人が民主的な発想を持っていて、豊かな高度成熟社会だと言っています。それを目指そうとするものです。ひと言で言ってチャレンジングなことです。私も直接山本先生に「先生の本に書かれていますが、生涯学習とは非常にチャレンジングですね。非常に民主的だし、高度な成熟社会を目指すと思いますが、実現できるんでしょうか」と尋ねたことがあります。先生は「埴君そのとおりだ。生涯学習とはそう簡単に実現しえない。それほどチャレンジングです。」と言いました。

今日発表をしていただく3名のパネリストの発表は現場の最前線のチャレンジングな話です。これが正しい答えだと言うのは永遠のテーマで、答えは出ない。そういう答えの出ないところへ我々は立ち向かっているということになります。そうすると、結論を急ぐようですが、個人の問題であると思います。生涯学習はチャレンジングであると言うことを冒頭で問題提起させていただいて、早速、安藤さん、奥村さん、中村さんに現場の報告をしていただいて、議論を深める材料にしていきたいと思っております。なにせ答えがありません。個々の皆さんの行動が答えになるところもある訳です。それでは報告に入っていきます。



今年（今年）のテーマ
「見つめよう！地域の力」
～粹な心で豊かな暮らしを～
福祉や介護の分野にスポットを当てて、生涯学習の取組みを通じて、一人ひとりが自分と向き合い、大月で心豊かに暮らすために自分が地域に何ができるかを考えてみよう！



生涯学習は「自発と多様」の世界
「自己の充実・啓発や生活の向上のため、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とする。(中略) 必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うもの。」 山本恒夫『21世紀生涯学習への招待』
民主的で、豊かな高度成熟社会を目指すもので、非常にチャレンジング



■ 第1部 パネリスト発表

【パネリスト 安藤 剛 氏（大月市社会福祉協議会）】

こんにちは、大月市社会福祉協議会 地域福祉担当 安藤といいます。本日は、この様な場で、発表させていただく機会をいただき、感謝いたします。それでは、お話しをさせていただきます。プロフィールにも書かせていただきましたが、私が社会福祉協議会へ入社して21年になります。20年前と今では、世の中はとも変化しました。

大月市における変化をみると、総人口は20年前の平成7年度 34,758人、10年前の平成17年度 31,217人、現在の平成27年度 26,130人、現在と20年前を比べてみると、およそ8,600人減少しています。世帯数も20年前と比べてみると、約170世帯の減少がみられます。高齢化率（65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）ですが、平成7年度 18.2%、平成17年度 25.5%、平成27年度 34.5%、20年前と比べると16.3%増加しています。現在はおよそ3人に1人が65歳以上の割合となっていますね。

世の中の進化により、とても便利になったと感じます。コンビニの普及により、24時間いつでも食べ物、日用品等が購入できるようになった。自宅までの宅配も実施しているところもあります。家電品もかなり進化しました。冷暖房も今ではかなりの家庭に設置されています。キッチンには食器洗い機がり、洗濯機も乾燥まで自動で出来ます。テレビも地上波、薄型になりました。携帯電話の進化も、目を見張るものがあります。所有率も現在は100%以上となり、一人一台以上持っている割合となっています。携帯電話の普及により、いつでもどこでも、連絡がとれるようになりました。またパソコンの普及により、自宅に居ながら、世界中の様々な情報を得る事ができるようにもなりました。生活用品等もインターネットで注文し、買い物が出来ます。そのような進化により、普段の暮らしも、とても便利になってきましたが、

近年、各地において様々な大規模な自然災害が発生しています。平成23年3月に起きた「東日本大震災」地震による津波により甚大な被害をうけました。



大月市の様子

年度	総人口 (10月1日現在)	世帯数 (10月1日現在)	高齢化率 (10月1日現在)
平成7年度	34,768人	10,779世帯	18.2%
平成17年度	31,217人	10,815世帯	25.5%
平成27年度	26,130人	10,606世帯	34.5%

1

時代の変化

コンビニの普及
家電品（冷暖房、食器洗い機、洗濯機）
テレビの普及
携帯電話の普及（スマートフォン）
パソコンの普及（インターネット）

物理的に便利になって
暮らしやすくなった が・・・。

2

平成23年3月 東日本大震災



3

私たちの住んでいる大月でも、2年前の平成26年2月の冬に大雪による豪雪災害がありました。右の写真は大月駅前の国道20号です。昨年9月には豪雨による河川の氾濫の災害もありました。

このような災害が発生するなかで、日本各所で、「絆」という言葉をよく聞き、復興支援活動が行われました。現在、便利で一人で暮らすことができる世の中ではあるけれど、改めて地域の助け合いの必要性が求められました。個人が自分の身を守る備えだけでは十分とはいえません。近所の方々と問題を共有し、日頃からみんなで問題について考え対応することが、地域のつながりとなり「助け合える地域づくり」が大切です。

そういった日頃からの地域でのつながり、地域福祉活動を推進しているのが、私たち大月市社会福祉協議会となります。皆さんからは、社会福祉の「社」と協議会の「協」の略して「社協」と呼ばれています。

社会福祉協議会（社協）では、地域のみなさんや福祉関係者、福祉関係団体などの協力を得て、共に考えて実行し、様々な形でご参加をいただきながら「地域福祉の推進・向上」のための事業を展開しております。

これからのまちづくりは、子どもからお年寄りまで、住民の誰もが住みなれた地域の中で、心豊かに安心して暮らせるように、お互いに助けたり助けられたりする関係や、その仕組みを作り、それを持続していく「地域福祉の推進」が求められています。

そのために、様々な生活課題の解決に向けた取り組みとして住民個人、一人ひとりの努力による「自助」、となり近所の助け合い、ボランティア活動等の住民同士の相互扶助による「互助」、社会保障制度等の制度化された相互扶助による「共助」、行政の支援等の公的な制度による「公助」、これらの連携によって課題を解決していこうとする取り組みが必要とされています。そのような地域福祉の推進には、冒頭でお話いたしました、日頃からの地域のつながり、「助け合える地域づくり」がとても重要です。そのために、“住民の顔が見える”日常生活圏を基礎に行われる住民のさまざまな福祉活動、「地域」にある福祉課題にみんなで取り込んでいこうという小地域福祉活動を推進する必要があります。具体的な取り組みとしては、ご近所同士の見守り、声かけ活動やふれあいいきいきサロン活動、災害時の要援護者の支援体制づくり等が考えられます。

そういった、地域福祉の推進・向上を図るため、計画的に取り組むことができるように大月市社会福祉協議会では「地域福祉活動計画」を策定しています。現在取り組んでいるのが「第2次地域福祉活動計画 おおつき花咲プラン」で、平成25年4月から平成30年3月までの5か年計画となっており、大月市社



復興支援活動

絆

日頃からの地域（人と人）のつながりが大切！
助け合える地域づくり！

5

社会福祉法人
大月市社会福祉協議会

6

社会福祉法人
大月市社会福祉協議会

地域住民や民間福祉団体などの協力を得て、共に考え実行し、様々な形で、ご参加いただき、**地域福祉の推進・向上**のための事業を展開

7

地域福祉の推進

子どもからお年寄りまで、住民の誰もが住みなれた地域の中で、心豊かに安心して暮らせるように、お互いに助けたり助けられたりする関係やその仕組みをつくり、それを持続していく

様々な生活課題について

- 住民一人ひとりの努力（自助）
- 住民同士の助け合い、ボランティア活動（互助）
- 制度化された相互扶助、社会保障制度等（共助）
- 公的な制度、行政による支援（公助）

連携により解決していこうとする
取り組みが必要

8

協が中心となって、地域内の様々な社会資源と地域住民、社会福祉に関する活動や社会福祉事業を行うものを結び付けながら、相互協力して地域の課題に取り組むために策定する「地域福祉の推進」を目的とした民間の住民活動・行動計画となっております。

第2次地域福祉活動計画おおつき花咲プランは、行政の福祉計画と整合性を図りながら「行政と協働」による福祉のまちづくりを目指しております。計画策定にあたり、住民福祉懇談会等を各地区で開催し、計画に地域住民の意見を反映させることができました。計画の基本理念は「みんなでつくる ささえあいの福祉のまち大月」としてしております。「おおつき花咲プラン」の基本的な考え方を実現するために、事業・活動を展開する際、大切にすることを5つにまとめています。福祉課題をみんなで発見「気づき」、みんなで対応について学び考え、みんなに知らせ、解決に向けて行動することを大切な働きとしております。そして「おおつき花咲プラン」の具体的な取り組みですが

- 相談援助活動の充実
- 地区社会福祉協議会活動の推進
- 福祉啓発・情報の収集提供活動の推進
- ボランティア活動の推進
- 福祉教育の推進
- 個別支援・当事者支援活動の充実
- 大規模災害への福祉的対応
- 福祉施策・制度への提案

の8つの柱から構成されております。

具体的な取り組みを推進するために、社会福祉協議会と、行政や福祉関係機関、福祉関係団体等と連携、協力を図りながら、地域福祉の推進を行っております。福祉関係団体には地区に設置されている地区社会福祉協議会や福祉活動には欠かすことの出来ない民生委員児童委員協議会やボランティア協議会、そして当事者団体であります老人クラブ連合会や障がい者福祉の会等があります。

中でも、大月市社協が地域福祉の推進、地域づくり活動を行うための中心的な団体が地区社会福祉協議会になります。地区社協の組織は、地区の町内会・自治会をはじめ、民生委員、ボランティアなどの地域福祉活動に携わる者、老人クラブや障害者団体などの福祉当事者組織、社会福祉施設などの関係機関、学識経験者など、地域の様々な組織、団体、個人等で構成されております。現在 笹子から梁川までの大月市内に10地区の地区社協を設置しており、大月市社協にて地区担当職員を配置し、地区社協と連携を深めながら地域福祉の推進を図っています。

小地域福祉活動の推進

“住民の顔が見える”日常生活圏を基礎に行われる住民のさまざまな福祉活動の総称
「地域」にある福祉課題にみんなで取り込んでいこうという活動

- 近所の見守り・声かけ活動の普及
- ふれあいいきいきサロン、子育てサロンの開催
- 生活環境の改善
- 地域住民の安全確保
- 地域住民の交流促進
- 災害時の要援護者支援体制づくり 他

9

おおつき花咲プランの策定

(第2次地域福祉活動計画)

大月市社協が中心となり、相互協力して

地域の課題解決に取り組むために策定

地域福祉の推進を目的とした

民間の住民活動・行動計画

10

おおつき花咲プラン

(第2次地域福祉活動計画)

基本理念

基本的な働き

みんなでつくる
ささえあいの
福祉のまち大月



11

福祉関係団体と協力

- 地区社会福祉協議会
- 大月市民生委員児童委員協議会
- 大月市ボランティア協議会
- 大月市老人クラブ連合会
- 大月市障がい者福祉の会
- 山梨県共同募金会大月市支会

12

地区社会福祉協議会

住民福祉の向上を目的とし、各種団体が集まった組織
現在 大月市内 10か所に設置

特徴

住民同士のつながりを大切にし、地域社会の福祉課題や生活課題を見つけだし、解決方法を住民組織や地域での自発的な協力を得ながら、行政、福祉団体、専門機関等と協力・連携して問題解決に向けて取り組む

地区担当職員の配置

地区社協(住民)と市社協で連携を深め地域福祉の推進を図る

13

地区社協は、住民どうしのつながりを大切にしながら、住民の主体的な福祉活動を展開し、福祉コミュニティづくりのための基礎組織をつくることを目的としており、各地区における福祉課題、生活課題を見つけだし、解決方法を住民組織や地域の皆さんの自発的な協力を得ながら、行政、福祉団体、専門機関等と協力・連携して問題解決にむけて取り組んでおります。

地区社会福祉協議会の取り組みについて、いくつか紹介させていただきます。

【地域見守りマップ、福祉防災マップの作成の様子】



14

【ふれあい交流会】



16

地域において、災害時に支援が必要と思われる高齢者、障害者等（要援護者）の所在、状態を地域のみんなで把握し、平常時の支援活動、および緊急時の援護活動をどのようにしていけばよいのか、参加した一人一人が考えて、地域見守りマップや福祉防災マップの作成を行っています。

地域住民が集まり、地域の各種団体や住民を結び、顔の見える関係づくりのために「ふれあい交流会」を開催したり、一人暮らしの高齢者の方たちに、地域の方たちとの交流をもち、楽しいひとときを過ごしていただけるよう、また元気で長生きしていただけるように「交流会」も開催しています。

【小学校と高齢者の交流を含めた福祉学習会】



21

【小学生とのマスのつかみどり大会交流会】



22

また、地域と子ども達との世代間の交流事業も実施しております。福祉教育の推進として、共同募金プランターづくりを実施し環境美化をもって地域に貢献しています。共同募金プランターには、児童自らが考えた福祉メッセージを手書きで作成することにより、共同募金や地域福祉に対する関心を深めることができました。プランターづくりを通して、世代間の交流やプランターを町の各種や商店街へ設置することで、町も華やかになりました。上記も世代間交流事業で、ますのつかみ取り大会を開催しました。このような事業を行うことで、地域の小学生と、その保護者、高齢者までの世代間の交流もでき、今後の地域福祉活動に繋がっていくと考えられます。少子化の進む中、地域の貴重な財産である子供たちの成長を見守っていききたいと話していました。

そして、大月市内においても、活動が普及してきました「ふれあいいいききサロン」です。

地区社会福祉協議会においても、活動への支援、協力を行っております。サロン活動については、地域福祉活動を推進するうえで、地域の力を活かすことのできる大変重要は活動だとえます。本日この後、パネリストの奥村さんよりサロン活動の紹介がありますので、私からサロンの特徴などをお話しさせていただきます。

昔はご近所同士で集まってお茶飲み会をしている風景をみかけましたが、最近では、あまりみかけなくなりました。そういった中、近所同士のつながり、助け合いが大切と改めて考え、地域で気軽に参加でき、交流できる場所が、「ふれあいいいききサロン」で、いわゆる現在風の「お茶のみ会」です。



サロンの特徴を一言で表すと「地域住民によるつながりづくりのきっかけの場」です。介護保険制度などの公的制度は一定の福祉サービスを提供する事は出来ても、地域が抱えている固有の問題をきめ細かく解決する力は十分ではありません。それゆえに、地域住民相互のつながりと、それに基づく助け合いが重要になります。サロンは、参加する一人一人が共に楽しい時間を過ごしながらか「地域の一員」としての気持ち高め、地域社会におけるつながりの再構築、地域の助け合いが広がっていくことのきっかけの場となります。

現在、大月市内には69箇所ものサロンがあり活動をおこなっています。自治会単位での開催が多いですが、地区によっては数ヶ所の自治会が一緒に行う等、少し広い地域で実施している地域もありますので、市内のおおよそ、80%以上の地域において実施していると思われます。

活動の主体は、地域の方々に、地域の中でより健康な生活をおくること出来るように、気軽に無理なく楽しく過ごすことが出来る内容を、みんなで考え、つくりあげています。

サロン活動では様々な効果があります。

■「心のハリ」を持た

外出のきっかけや機会が少ない高齢者等にとっては、サロンに出かけて行くこと自体が「心のハリ」をもたらします。またサロンは気軽に集まれる場であり、自分が関心のあるプログラムに自由に参加することができ、自らの意思で参加しているといったように、主体的な気持ちになる効果もあります。参加者の「いきがい」を支えることのできるサロンであることが望まれます。

■地域住民同士のつながりが生まれた

最近では隣の人の名前を知らないことも当たり前という地域も多くなっていますが、例えば災害時の避難支援などの初期対応、その後の生活の立て直しにおいても、地域のつながりが強いほど円滑に進みやすいと言われています。サロンを通じて参加者たちは、これまで話すことのなかった人達とも関係を持つことができ、地域で生活することの楽しさを感じています。また、地域としての一体感が強まったという声もあります。

【いきいきサロンと保育園との交流会】



26

【いきいきサロンと小学校児童との交流会】



27

■悩みを共有し助言を得る事ができた

誰も色々な悩みや問題を抱えて生活をしています。一方で、そういった悩みや問題の多くは、身近な人に相談したり、お互いに情報交換をすることで解決できるものも少なくありません。また、もっと難しい問題であったとしても、こうした身近な情報交換により、「どこに相談すれば良いのか」ということが見えてくるものです。サロンに集い、日頃抱えている悩みや問題を打ち明けることにより適切な助言を得る事ができ、心の健康を回復した参加者は数多くいます。サロンを「社会につながる小さな窓」として、集まってくる人たちが沢山います。

■楽しみながら健康維持

参加者が一緒に楽しく取り組むことで、健康についての自己管理の意識づけがなされ、地域の人たちが元気になるという効果も現れています。

■見守りの機能

サロンでは、担い手が参加者の状況を定期的、継続的に見ることになります。参加者の微妙な変化に気づくには相応の力が必要です。しかし、福祉や医療の専門職が参加者一人一人の毎日の様子を長時間見ていることはできないので、サロンの参加によるお互いの気づきには大きな意味があります。参加者と担い手は、サロンのとき以外にも地域の中で出会うことがあります。これも大切な「見守り」の機会です。

上の写真では、健康体操や小学校、保育園との交流、町単位でのサロン交流会を開催しています。

地域福祉活動を推進する中、サロン活動への参加は、サロン活動の枠を超えて自発的な地域福祉活動を始める契機となっている。他にも各地域において様々な活動を実施しております。

このような日頃からの活動を通じ、つながりあうことで、困ったときに「助けて」といえるような、良好な地域コミュニティ、人間関係を気づくことができます。日頃からの見守り・声掛けを行なうことで、地域住民同士で身近な人を見守ることもできます。

また、福祉課題や生活課題の発見にもつながります。時代の進化と共に、生活全般は便利になり一人でも生きていける気にもなりますが、しかし、一人で生きていくことは無理です。

地域の人と人、顔と顔をつなぎ、地域を基盤とする活動が住民相互による「助け合える地域づくり」となります。

日頃からの活動

- 良好な地域コミュニティづくり
- 困ったときに「助けて」といえる人間関係をつくる
- 気になる人の見守り・声かけを实践、福祉課題や生活課題の発見
- 災害時の支援や地域での孤立の発見

住民相互による活動

様々な顔と顔をつなぎ 地域を基盤とする活動

助け合える地域づくり

28

そして本日お集まりいただいている皆さんも、きっと大月市が良くなるように、地域のために何かしたいという思いがあると思います。その気持ちこそが大月市を良くするための機動力となります。

その「地域を良くしたい」という、ちょっとした気持ちを大切にいただき、自分の大切な時間を少しだけでも、本日紹介した活動へ参加していただいたり、またその他の、地域のお祭りや行事へ参加したりして、地域とのつながりをもつことを大切に思っていいただければと思います。

少しの気持ちも、大勢の気持ちになれば、とても大きなものになります。

また、これからの地域福祉活動の推進のためには、もっとたくさんの地域の力が必要です。大勢の協力が得られるよう、新たな人材の育成や確保を行ったり、福祉の気持ちを育む研修会を実施していきたいと考えております。是非ご協力をお願いします。私ども社会福祉協議会より発行している広報誌「社協だより」にて様々な情報を発信していきますので、ご覧になっていただき、色々なご意見をいただければと思います。

終わりに、大月市社会福祉協議会は地域の住民同士のつながりを大切にしながら、すべての市民が地域に関心をもって、生活課題を発見して、その課題についてみんなで考え学んで、みんなで解決に向けて取り組めるような地域にしたいと考えております。大月市の市民が、ともにささえあい、助けあいのまちづくりを推進していきましょう！

今後とも私たち大月市社会福祉協議会と共に地域住民みんなで地域福祉の推進をしていきましょう！

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

住民の思い


地域のために何かしたい！

- 現在行っている活動への参加
- 新たな人材の育成、確保
- 福祉の気持ちを育む研修会の実施

29

～終わりに～

**すべての市民が ともにささえあい
助けあいのまちづくりを推進しよう！**



～ご清聴ありがとうございました～

※写真のみのスライドは省略しています。

【埜コーディネーター】

安藤さん、ありがとうございました。大変興味深い発表でした。ご承知のとおり人口減少の問題は大月だけの問題ではありません。理論的、統計的に人口が減少しますと、当然、担い手である若い人が減少し、地域の繋がりを強調していましたが、そこが薄れてしまう訳です。それを何とか止めようとするのが地域福祉の推進です。地域福祉の推進が肝だと思いますが、地域福祉の推進と言うと、否定する人はいないと思いますが、資料8ページにもあるように自助・互助・共助・公助と4つの助があります。この4つの助を柱として地域福祉を推進し粹な心で豊か暮らしを目指してチャレンジしているところです。この4つの助の中で、これが特に重要だと言うものがあれば教えていただきたいです。



【パネリスト安藤 氏】

自分の身は自分で守ると言う自助も大事ですが、併せまして私の担当している地域福祉担当では、地域の繋がりを重要としていますので、住民同士の助け合い、ボランティア活動の充実を図るための互助が大事になってきます。



【埜コーディネーター】

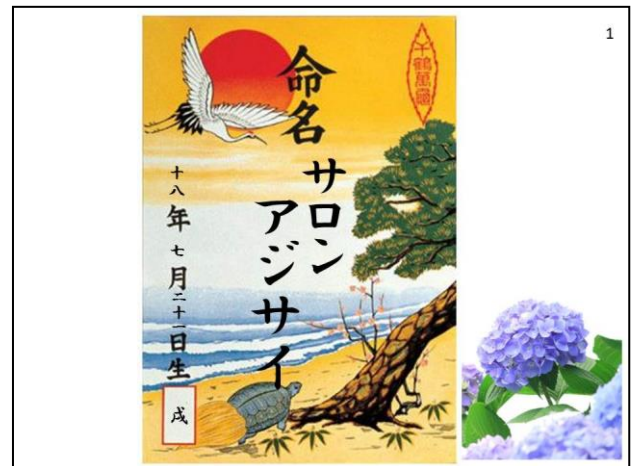
ありがとうございました。この後のディスカッションの材料になると思います。

【埜コーディネーター】

次のパネリストに移らせていただきます。それでは続きまして、ふれあい・いきいきサロン サロン アジサイの奥村恵美子さん、お願い致します。



【パネリスト 奥村 恵美子 氏 (ふれあい・いきいきサロン サロン アジサイ)】



私は、笹子町原地区の民生委員の奥村恵美子と申します。今日は、サロンの発表ということで、私たちの日ごろの活動を発表したいと思います。

サロン名は、アジサイと言います。名前の由来は、アジサイが咲く季節に立ち上げたので、「アジサイ」と命名したそうです。平成18年7月21日、市内で37番目、会員43名とボランティア3名でスタートしました。

まず、笹子町の状況をご説明いたします。昨年12月1日のデータですが、笹子町は407世帯1,072名が暮らしています。その中で原地区は、102世帯282名、笹子町の人口の約27%を占めています。平均年齢は、54歳弱で、一人暮らし高齢者世帯は、14戸、約7軒に1軒が一人暮らし世帯となっています。

サロンの登録状況は、平成27年度当初参加者23名ボランティア9名の31名でスタートしております。月1回第2木曜日に原公民館で実施しています。会員の中には、家族が送迎する方もいますが、ほとんどの人が歩いて公民館まで来ています。サロンアジサイは、参加者23名、ボランティア9名で全員が女性です。発足当時は、男性会員もいたのですが、だんだんと少なくなり、今は女性ばかりです。会員の平均年齢は84.6歳、最高年齢は95歳！介護サービスを利用することなく、サロンに参加しています。また、ここ3年会員が減ることなく変わらずに参加できているということは、サロンが介護予防やいきいき健康寿命に一役買っているのかなと感じております。

それでは、サロンの過ごし方を少しお話しします。

平成27年 笹子の状況

平成27年12月1日現在

笹子町	1,072人(407世帯)
	男517人 女555人
原地区	282人(102世帯)
男:女	149:133
平均年齢	53.6歳
一人暮らし高齢者	14世帯(H27.8)



平成27年度 サロン登録状況

平成27年4月1日現在

実施地区	笹子町原
実施会場	原公民館
参加人数	23人(男0人・女23人)
ボランティア人数	9人
回数及び開催日	月1回/第2木曜日



平成27年度 サロンの登録内訳

平成27年12月1日現在

参加人数	23人/(男0人・女23人)
	平均84.6歳
	最高齢95歳
ボランティア人数	9人
	平均73.8歳



サロンの過ごし方

- 13:00 ボランティア集合
 サロンの準備
- 13:30 会員集合
 「歌を歌う」
 「体操」
 「お茶会」
- 15:00 会員解散
 片づけ
- 15:30 ボランティア解散

大体の目安です、開催月によって変わります



年間の活動

4月	お花見
5月	季節の歌を歌う・体操・お茶会
6月	季節の歌を歌う・体操・お茶会
7月	季節の歌を歌う・体操・お茶会
8月	休 会
9月	季節の歌を歌う・体操・お茶会
10月	季節の歌を歌う・体操・お茶会
11月	笹子駐在所・久保田さんの出前講座
12月	クリスマス・パーティー
1月	休 会
2月	休 会
3月	休 会



サロンは、月1回第2木曜日1時～3時ぐらいまで原公民館で実施します。1時にボランティアが集合して準備していると徐々に会員が集まってきて、1時半にはほぼ全員が集まり、歌ったり体操したりおしゃべりしながらお茶のみをしています。大体3時ぐらいに終わるようなスケジュールです。

それでは、年間の活動を紹介します。4月に始まり7月まで、8月をお休みして、また9月から12月まで活動します。1月～3月は、寒いのでお休みしています。桜の花の咲いた4月の暖かくなったところから活動を始めます。4月はお花見です。「久しぶり」や「元気だった？暖かくなったね」と色々な言葉が聞こえます。サロンが終わった後は、近所に桜見物に出かけます。5月から11月までは、歌や体操などに工夫して季節を楽しみながらみんなで一緒に時間を過ごします。工夫の一つとして隣の地区の吉久保との合同サロンを開催しました。みんな顔見知りなので賑やかにおしゃべりをして、楽しい時間を過ごしました。また、石和からオカリナ演奏グループに来てもらい演奏に合わせてみんなで一緒に合唱しなかなか耳にすることのない音楽にふれあいました。

そして、今年の11月には、笹子駐在所の久保田さんの出前講座をして頂き、久保田さんの手作り紙芝居による振り込め詐欺防止について伺い、お茶会の時間には、いろんな質問やみんなの体験談などが出て有意義な時間になりました。

そして、今から、12月10日に行われた今年度最後の活動となりましたサロンアジサイのクリスマス会の活動を見ていただきます。原公民館は、普段テーブルやいすは片づけてあるので会場づくりからスタートします。この日は、11時からクリスマス会が始められるように9時半ごろからボランティアさんが集まり準備を始めました。ボランティアさんが作ったけんちん汁や漬物、煮物や甘酒など、みんなで昼ご飯を食べて過ごせるように早い時間から集まります。

会場を、みんなが折り紙で作った輪飾りで飾ります。各自、家からクリスマスツリーを持ち寄り、入口付近をリボンなどで飾り、プレゼントを並べます。小さなゴールドのツリーをテーブルに飾ったのですが、「緑の色がないのはさみしいね」ということで急遽、ボランティアさんの家の庭から柗をとって飾りました。毎年なので、ボランティアさんたちも手慣れたものです。料理、会場の飾りつけなど、みんなで分担しながら用意します。

12月のクリスマス会・準備

サロンボランティアさんたちで会場の飾りつけ



12月のクリスマス会

会員の中には、1カ月ぶりに会う方もいます

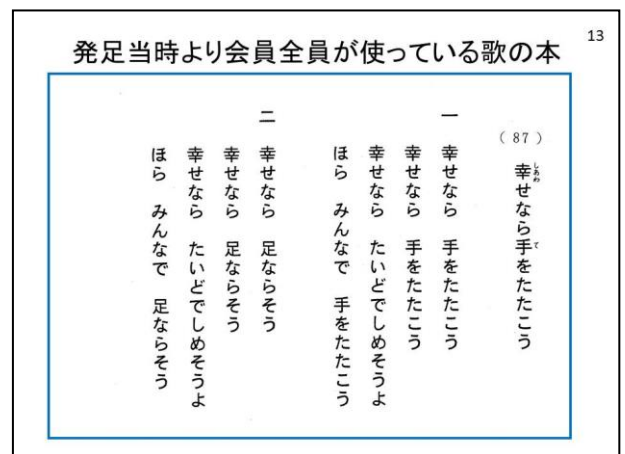
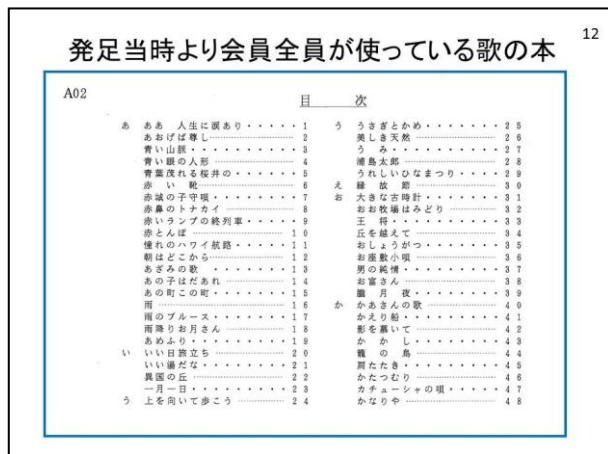


開始20分前になると、会員さんが来はじめます。なかには、1カ月ぶりに会う方もいたりするので、あっという間に学生に戻ったようにおしゃべりが始まります。大体11時ごろ、クリスマス会の始まりです。みんなでクリスマスの歌を歌うことから始めます。その様子をご覧ください。【映像】



はい、歌っている映像を見ていただきました。映像の中で会員さんが歌いながら見ていたものは、右上の歌集です。この歌集は、会員全員が1冊ずつ持っています。

本のなかには、懐メロや童謡、学校唱歌など、なんとなくみんなが歌えるような歌ばかりで作られています。全部で200曲の歌詞が綴ってあり、毎月2・3曲をみんなで歌うようにしています。大きな声を出すことで、からだがかかつかしませんか？体全体の血の循環が良くなり、それによってからだの機能の働きが良くなるからだだと思います。歌うことより、口から体の中の色々ないやなものが出ていくような気持ちになり、気分が爽快で体に良い効果は絶大です。大きな声で歌うことは、心にも体にも良いことだこのサロンを通じて感じています。



この本のサイズはA4の横版です、なかは大きな字で書かれていて、ひらがなが多く、見やすく歌いやすいように作られています。会員さんは本当に大きな声で歌います、では、「幸せなら手をたたこう」をここで聴いて下さい。【映像】

2曲聞いて違いがわかりますか？同じ人が歌うので、さほど変わりはないような気もしますが、表情や声、微妙に違います。みんな大きな声を出した後は、顔色が良くなってきます。



そしてこの日は、体を動かす体操ではなく指先を動かす体操を兼ねた「クリスマスツリー工作」をしました。ゴールドの色つきマカロニをボンドでツリーに貼り、飾り付けをしました。最初は、お隣さんとお話ししながら作っていたのですが、時間が経つにつれて口数が少なくなり集中して作っていました。どのツリーを見てもかわいい出来栄です、同じ材料で作っても、それぞれ出来上がりが違い隣同士で見比べたりして楽しみました。この後は、お食事会の始まりです。

くじ引きや食事など、みんなでしゃべって食べて楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。大月市内の他のサロンに参加している人は、感じていると思います。仲間と過ごす時間は、いくつになっても短い時間でも楽しいですよ。

「サロン・アジサイ」は、みんなすこしおしゃれをして参加します。この時間をみんなで元気に歌い、話して笑い、楽しい時間を共有して過ごすことを目的として続けています。会員・ボランティアの登録区分はあっても、参加するみんながこのサロンの中で自分が出来ることをしています。遠くに出かけることは億くうなんだけど、原の公民館でするなら行きたいという気持ちと、仲間会いたいという気持ちが根っここの部分で繋がって、仲間がいる地元を大切にしていきたい、仲間会えるこのサロンを続けていきたいとそれがみんなの思いとなりました。創めたころは、男性会員がいました、参加者も多かったです。徐々に男性会員が少なくなり、今は一人もいません、新しい会員も増えないことなど悩みを抱えながら続けています。それでもこのサロンを続けていけるのは、背伸びせず、原地区の人に合ったやり方で続けているからだと思います。サロンを絶やしてはいけない、続けていきたいという気持ちでこのサロンは今年 10 年目を迎えられました。みんなの、地元を大事にする気持ちで、積み上げできた 10 年目だと思います。これからも、悩みながら皆で続けていくことが出来たら、原地区サロンアジサイらしい、みんなが楽しいサロンが続けられると確信しています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

指先の体操を兼ねた工作(クリスマスツリー作成)¹⁵



食事会とくじ引き大会

16



サロン効果

17



【埴コーディネーター】

奥村さん、ありがとうございました。なんとも可愛らしい歌声の映像もありました。前を陣取っている笹子町の皆さん、ご協力ありがとうございます。発表の中で、徐々に男性会員が減って行って、今はゼロという報告がありました。なぜ、男性がゼロになってしまったのか。男性は何処に行ってしまったのでしょうか。もし回答出来るなら、お願いします。



【パネリスト奥村 氏】

非常に難しい問題です。私が代表を引き継いだときには、男性はゼロでした。これからの課題です。

【埴コーディネーター】

私もアメリカの事を研究していますが、生涯学習はアメリカにもあります。アメリカでも共通の課題で、活動を続けていまずと男性が減ってしまうんですね。ニューヨーク市では政策で何とか7:3ぐらいの割合で引きとめたという事例があります。ニューヨークは寒波が来ると非常に寒いところです。そこで高齢者の政策で、夫婦で温水プールに来て運動して下さいと言うのをやりました。夫婦で来て下さいと言うところがポイントです。そうすると、男性の減少が止まったという事例です。また、後ほどディスカッションしましょう。ありがとうございました。



【埴コーディネーター】

それでは続いて、大月市保健介護課の中村 太一郎さん、お願い致します。



【パネリスト 中村 太一郎 氏 (大月市保健介護課)】

みなさんこんにちは。私は大月市役所保健介護課地域包括支援センターで社会福祉士として働いております中村と申します。本日は、大月市生涯学習推進大会でパネリストとして出席させていただき、本当に光栄に思います。私のいる地域包括支援センターでは、これからも誰もがこの住み慣れた大月でいつまでも暮らしていくために、高齢者分野における関係機関と共に様々な取り組みをしているところです。今の本市の現状や課題を踏まえ、取組み内容をみなさんにお伝えしながら、今回のテーマにある「見つめよう！地域の力 ～粋な心で豊かな暮らしを～」に結び付けられるようなお話をさせていただき、みなさんと一緒に考えていければと思っています。本日はどうぞよろしくをお願いします。

早速ですが、みなさんは、地域包括支援センターをご存知でしょうか？大月市地域包括支援センターは保健介護課の中にあり、介護予防という担当名で市が直営で行っている相談機関です。65歳以上の高齢者や家族のみなさんを支えるため、介護・医療・福祉などの関係機関と協力して、みなさんの健康、生活、財産、権利などを守るために置かれている機関です。様々な相談に応じております。市役所第2庁舎1階に窓口がありますので、どうぞご相談下さい。あたり前ですが守秘義務で応じています。

大月市の現状として、人口についてみていきます。平成27年4月現在で、総人口は26,302人です。65歳以上74歳だと4,131人。75歳以上が4,820人。75歳以上が700人ほど多いです。総人口のうち65歳以上人口は8,951人で、高齢化率は34%と年々増加しております。10年後には、64歳未満の人口が減少し、65歳以上の人口が増えるため、高齢化率は44.1%と推計され、さらに増加します。

世帯状況では、65歳以上の夫婦世帯が1,442世帯、また一人暮らし世帯は1,134世帯と増えています。認知症高齢者の状況もお伝えします。大月市では、平成27年に「認知症」と診断された方が、1,087人おられます。このうち、933人が在宅で暮らしています。なぜこのような具体的な数字を表すことができるかといいますと、介護認定申請され、介護認定者から抽出しているからです。「認知症」の疑いがありつつも、受診はせず、また介護認定申請もしていない方も勿論いますから、もっと多くの方が在宅で暮らされているとあっていいと考えられます。

この急激な高齢化に伴うことで、どのような現象が起きるか見てみますと、1965年頃は、65歳以上の1人を、20歳から64歳の方およそ9人で支えていました。いわば「胴上げ型」となるものです。これが、2012年頃から、1人の方を20歳から64

第54回大月市生涯学習推進大会
見つめよう！地域の力 ～粋な心で豊かな暮らしを～

地域包括ケアシステムの構築に向けた
本市の取り組みについて

平成28年3月6日(日)
保健介護課
大月市地域包括支援センター
中村 太一郎

大月市地域包括支援センターは

■65歳以上の高齢者や家族を様々な面から支えています。

地域包括支援センターは、介護・医療・福祉などの関係機関と協力して、市民の健康、生活、財産、権利などを守るために置かれている機関です。

①総合相談・支援
(様々な相談に対応します)
②介護予防ケアマネジメント
(介護予防を支援します)
③権利擁護
(高齢者の権利を守ります)
④包括的・継続的ケアマネジメント
(適切なサービスを提供できるように支援します)

■大月市の現状

人口の推移

区分	平成12年	平成27年	平成37年
総人口	33,124	26,302	20,538
75歳以上	2,308	4,820	5,190
65～74歳	4,133	4,131	3,864
40～64歳	11,337	9,229	6,593
0～39歳	14,446	8,122	4,891
高齢化率	22.2%	34.0%	44.1%

平成27年度までは実数 平成32年度以降は第6期介護保険事業計画人口推計より
県高齢者基礎調査より

高齢者世帯の状況

区分	平成12年	平成26年	平成27年
高齢者夫婦世帯	877	1,360	1,442
ひとり暮らし高齢者	700	1,046	1,134
総世帯	10,755	10,619	10,588

認知症高齢者の状況

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
山梨県	16,722	20,476	23,352	24,263	25,543
大月市	846	913	941	1,024	1,087

■急激な高齢化に伴う現状や課題

人口構成では

肩車社会へ！

<1965年> 「胴上げ型」
<2012年> 「騎馬戦型」
<2050年> 「肩車型」

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れます。

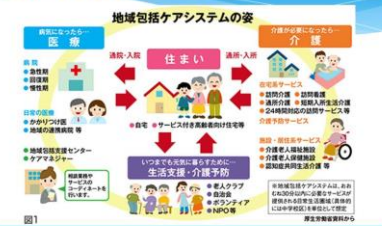

歳の方およそ 3 人で支えている状況に変化しました。「騎馬戦型」です。そして将来、2025 年には少子高齢化が今後ますます進み、「一人の若者が一人の高齢者を支える」という厳しい時代を迎えると予測されるのです。

<p>■急激な高齢化に伴う現状や課題</p> <p>介護保険制度では</p> <p>高齢化率の伸びは、介護保険にも影響する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険給付費の増大 ○個々に納めている保険料は次第に高くなる ○介護認定後の利用したサービス料金（自己負担額）が上がる <p>増大を止めなければならない！</p>	 <p>「私はこれからも大月市で暮らし続けたい・・・」</p> <p>問 家族などの介護や介護保険サービスを活用しながら自宅で生活したいですか？</p> <p>77%</p> <p>平成25年 日常生活圏域ニーズ調査より</p>	<p>目指すべき姿</p> <p>団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025)年を目途に要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう医療・介護・予防・住まい・生活支援など日常生活圏内でさまざまなサービスが包括的に提供される体制の構築</p> <p>↓</p> <p>地域包括ケアシステム</p> <p>本人(住民)の望む生活を叶える</p>
---	--	---

介護保険制度では、高齢化率の伸びと同様に、65歳以上の認定率が伸びていきます。すると、介護保険給付費の増大。個々に納めている保険料が高くなる。介護認定後の利用したサービス料金も上がることになり兼ねません。少しでもこれら増大を止めなければなりません。

「私はこれからも大月市で暮らし続けたい・・・」平成25年に行った、市内65歳以上の方を対象にした日常生活圏域ニーズ調査では、どのような形であれ、自宅での生活を希望する割合が、高いことが判明しました。いつまでも元気であるのは、もちろんのこと、介護を受けても、この地域で暮らしたいのは当たり前のことです。それが、この結果にも反映しています。

ここに、大月市がこれから目指すべき姿があります。団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025)年を目途に要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう医療・介護・予防・住まい・生活支援など日常生活圏内でさまざまなサービスが包括的に提供される体制の構築。いわば、本人の望む生活を叶えるための「地域包括ケアシステム」を目指します。

<p>地域包括ケアシステム</p>  <p>地域包括ケアシステムの姿</p> <p>医療・介護連携の推進</p> <p>住まい・生活支援の推進</p> <p>予防・健康増進の推進</p> <p>地域づくりの推進</p> <p>各々のニーズに合わせて切れ目のない支援をしていく仕組み</p>	<p>大月市地域包括ケア推進会議の設置</p> <p>誰もが住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続することができるよう保健・医療・福祉・介護・地域の関係機関及び団体が連携協力して地域における包括的なケアが推進できるよう検討するために推進会議を設置</p> <p>第1回 大月市地域包括ケア推進会議 平成26年10月8日(水) 市役所 委員会室</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムについて ・本会議の目的について ・大月市における現状及び課題について ・今後の取り組みについて <p>北郡医師会・大月市歯科医師会・大月市薬剤師会・民生委員・公民館長 介護支援専門員・社会福祉協議会・市立中央病院の各代表者 計11名 市関係者(市民生活部長・保健介護課・社会教育課・福祉課)</p>	<p>地域包括ケア推進研修会</p> <p>■平成26年12月3日(水) 市民会館 講堂</p>  <p>テーマ 「高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくために」</p> <p>コーディネーター 山縣 然太郎先生(山梨大学大学院教授)</p> <p>パネリスト 小俣 二也先生(認知症予防・生活支援推進課長) 野村 馨先生(市立中央病院医師) 矢崎 明子氏(認知症対策推進委員会委員長) 加納 健司氏(認知症対策推進委員会委員) 安藤 剛氏(福祉社会福祉協議会)</p> <p>出席者 153名 医療、介護、福祉、地域、行政等の関係者</p>
---	---	---

この住み慣れた大月市で暮らしていくために、一人一人がもつ課題、つまり、病気になっても、介護が必要になっても、住まいが変わっても、ちょっとした困りごとでも、元気に暮らせるための社会活動も、みなさんのお家を中心に、30分以内で必要なサービスが、切れ目なく支援ができる仕組みのことをいいます。

平成26年10月に、医療・福祉・介護・地域の関係機関の代表者を中心に大月市地域包括ケア推進会議が設置され、地域における包括的なケアが推進できるよう検討を始めてまいりました。

平成26年12月には、関係する機関の方153名の出席のもと、「高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくために」をテーマに研修会を行いました。

平成27年2月には、第2回推進会議にて、今後の取り組みについて

- 医療介護連携の推進
- 認知症施策の推進
- 地域づくりの推進

3つのワーキンググループに分かれて行うこととなりました。

第2回 大月市地域包括ケア推進会議

■平成27年2月17日(火) 市役所 委員会室



内容

大月市地域包括ケア推進会議設置要綱の決定

委員長 鈴木昌則先生(北郡医師会会長)

副委員長 野村馨先生(市立中央病院医師)

今後の取り組みについて

- 医療介護連携の推進
- 認知症施策の推進
- 地域づくりの推進

関係者によるワーキンググループの設置

関係する機関や団体の方々に出席いただいて、それぞれ課題に対して意見やアイデアを出してもらい整理し、体制整備に向けて取り組んでおります。平成27年度は、それぞれ4回ワーキングを行ってまいりました。課題に対し、共通認識を図り、これは行政だけではなく、関係機関、行政も住民も一体になって作り上げていく、地域包括ケアシステムであることを、ワーキングをしながら分かりあいつつあります。なお、地域づくり推進ワーキングでは、大月市公民館連絡会の加納健司先生を座長に、高齢者の社会参加の必要性や居場所づくりについて、生活におけるちょっとした困りごとの支援などについてワーキングを行っています。空き家について廃校を使ってみんなが集まれる居場所をつくったらどうか？送迎や買物の付添、話し相手などちょっとした困りごとに応じた、住民でつくるボランティアグループを作ったらどうか？などなどアイデアや工夫が飛び交っています。

今後、誰もが、要介護状態にならないように、「介護予防」に努め、要介護者の増加を減らし、支援を受ける側になるだけでなく、支援する側にまわる。いわば、胴上げ型社会として、一緒に社会的役割を担ってほしいと思います。

皆さんは、「介護予防」と聞くと、どんなイメージを持ちますか？体操教室に行くことですか？ジムで筋トレに励むことですか？このようないわゆるトレーニングも「介護予防」の1つですが、それだけでなく、張り合いのある生活を送ることが大切と言われています。どんな生活に張り合いを感じるかは、人によって違います。働くこと、地域のボランティアに参加すること、趣味やスポーツに打ち込むこと、自分の教養を高めること、孫の世話をすること。このように、「自分の好きなことや大事にしていること」を中心とした生活を送ることが「介護予防」ともいえます。

行政中心ではなく、住民と関係機関と行政が一体とならなくてはならない！（地域包括ケアシステムは皆で作るもの）関係機関が集まることで、思い付かないアイデアが生まれる！それぞれに役割があることで、やる気が出て、同じ目標に向かえる！これが一体感につながる。地域の生活課題は、住んでいる住民が一番よく知っている！（アンケート調査を行ったり、地域ごとに生活課題も様々で異なります。地域に向いて声を聞き、その地域にあった資源整備も大切だと思います）

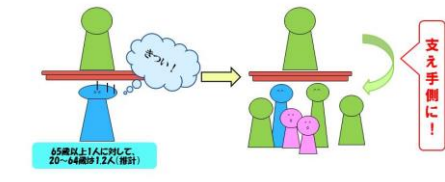
おわりに、皆さんに行動していただきたいことをお伝えします！自助：自分の力で住み慣れた地域で暮らすために、介護予防活動に取り組んだり、健康維持のために検診を受けたり、自発的な活動をしましょう！互助：自分ひとりだけで、年若い身体が思うように動かなくなっていく高齢期に、自分ひとり

取組み ワーキンググループ



12

肩車社会にならないように！今のうちから！



13

介護予防はトレーニングすること？

A. トレーニングよりも大切なのは **張り合いのある生活です！**

トレーニングは張り合いのある生活をするための手段！



14

●ワーキングから得たことや感じたこと

行政中心ではなく、住民と関係機関と行政が一体とならなくてはならない！
(地域包括ケアは皆で作るもの)

思い付かないアイデアが生まれる！
それぞれに役割があることで、やる気が出て、同じ目標に向かえる！

地域の生活課題は、住んでいる住民が一番よく知っている！また、地域ごと生活課題は違うこと！

15

■おわりに

自助 これからも元気で張り合いのある生活を送りましょう！！

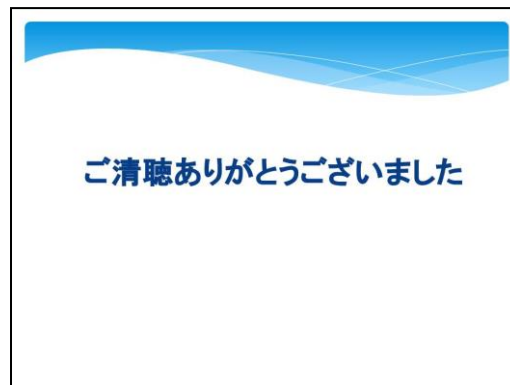
互助 そして介護が必要な方や、ちょっとした手助けを待っている方を支援できる支え手側でもあり続けましょう！！

いつまでも役割を持ち続け、大月市内で共に助け合う粋な心で地域づくりに貢献を！！

16

何とかするという考えでは、モチベーションも続かないようになりま。つまり、自分自身で行き詰った時のサポートが必要であり、時によっては、自身がサポートする側に回ることもでき、役割を持ち続けられる、人と人同士が支える「互助」が必要となります。どうぞ、いつまでも役割を持ち続け、大月市内で共に助け合う絆な心で地域づくりに貢献を！！

以上です。ご清聴ありがとうございました。



【埜コーディネーター】

中村さんありがとうございました。大月市でも地域包括ケア推進会議というものを立ち上げて進めているところの中で、自宅療養を進めて行こうという機運が数字的に大月は高いと言う報告がありました。重要なポイントがあれば、ディスカッションの材料にしたいと思いますが。

【パネリスト中村 氏】

病院に入院している方が、介護状態となった場合、自宅には帰れないので入所できる施設に入所するのが通常の流れです。しかし、大月市内の介護施設というのも限られています。高齢者も増えて、施設もいっぱい状況です。そうすると、市外の施設や息子さん・娘さんのいる市外に転出してしまうケースがあります。年間100人ほどいます。高齢者においても人口減少の要因になっています。先ほど説明した3つのワーキングの1つに医療介護連携ワーキングがありますが、介護状態になっても出来る限り自宅で暮らせるよう、在宅サービスの充実に向けて、いろいろな話し合いがもたれています。病院に入院して退院後、在宅復帰率を上げて行くことを共通の認識としています。



【埜コーディネーター】

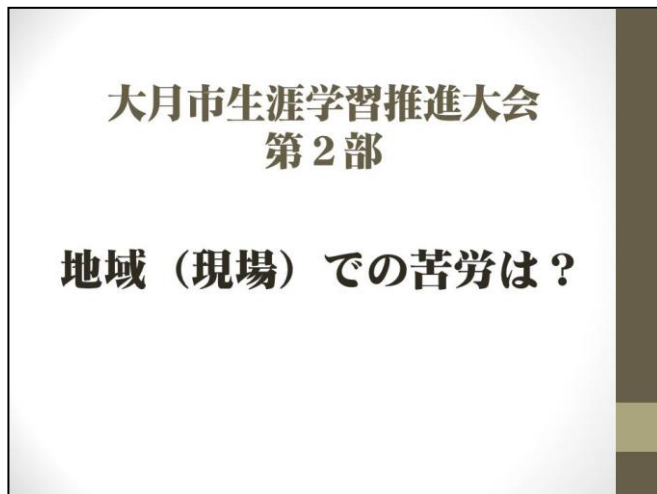
日本の中でも、大月は先進的に進めているという実績だと思います。ありがとうございました。以上で3名のプレゼン報告を終えたということになります。引き続き2部のディスカッションに入りたいと思います。



■ 第2部 ディスカッション、会場との対話

【場コーディネーター】

パネリストの3人から、ご意見を伺いたいと思います。1つ目は共通の質問として、皆さんの所属している組織・団体での職務や活動を行うなかで、常に苦勞されている点、上手くいかない点は何でしょうか。裏を返せば、地域の現場に横たわる最大の問題は何だとお考えですか。安藤さんからお願いします。



【パネリスト 安藤 氏】

普段の業務をしている中で、いろんな人たちと顔を合せます。難しいなと思う点は、いろんな場に出てきてくれる方は顔を合せるのですが、家から出てこない方（いろんな生活課題があって、困っているのに出てこれない）を発見、把握する事が難しいです。引きこもりなどの把握やネットワークづくりをしていかなければならないなと感じています。

【場コーディネーター】

主体的と言いながらも、主体がうまくいかなければ外に知られない訳ですね。次に奥村さんいかがでしょう。

【パネリスト 奥村 氏】

発表の中にもありましたが、平均年齢が85才以上と高齢ですので、サロンに参加してくれるだけで十分であると考えています。問題点とすると、新規会員を増やしていくことです。それと、意識改革も必要と感じています。

【場コーディネーター】

意識の問題は大事で、意識は行動様式に表われます。教育学部の学者に言わせると、分かっているけど、それを何で実現するかというと、行動様式の変更でしかない。生涯学習・社会教育の領域でも同じことが言えます。私の教えている学生でも同じです。わかったと言っても1週間後には何も変わっていないということが良くあります。結局、行動様式が変更されていない訳です。次に中村さんお願いします。

【パネリスト 中村 氏】

情報の伝達または地域に浸透させるための普及啓発がうまくいかないと感じることが多々あります。

【場コーディネーター】

行政の仕事は、広く広報して示すことが重要です。そんな中でも自発は必要です。強制的とか義務的なものではないので。課題は当然皆さんあります。課題があることが問題ではなくて、克服するパワーがあるかどうか重要です。

次に、もう一つ私の方で質問です。ご自身の活動・経験を踏まえ、今または今後の「大月」に何が最も必要である（もっとこうすれば良い）と感じていますか。その理由も含めてお聞かせ下さい。今度は中村さんからお願いします。

大月市生涯学習推進大会 第2部

いま「大月」に何が必要？

【パネリスト 中村 氏】

人材が必要だと思います。普及啓発の話を先ほどしましたが、本日パネリストとして皆様に介護等の現状や取り組みを普及啓発できる機会をいただけて感謝しています。今ワーキングの中で、地域包括ケアシステムの構築を伝えていくことをしていますが、これが地域の隅々まで伝わっていくにはどうしたら良いか。今日は300人以上の方に伝えることが出来ましたが、今後どうしていくかとなった時に、人材だと思います。ボランティアというものがありますが、年々ボランティア活動も大変になってきていて、市で講習会を開催しても、受ける方が少なくなってきました。認知症の方が増えてきていますが、認知症を理解して見守る必要性もありますけども、実際に認知症の方がお金を持っていた通帳の管理ですとか、訪問サービスの利用手続きですとか、自分ではもう判断能力がない訳ですから、その方を支える後見人さんが重要となります。本来はお金があれば、弁護士さんとか司法書士さんに依頼するところですが、今は市民が出来る部分と一緒に後見人をやっていきたいと思います。本市でもそれに伴う講座を開催しています。はじめる前は何人ぐらい集まるのか不安はありましたが、13名の受講がありました。関心のあることは皆さん手を上げてくれるのかなと思いました。ボランティアをお願いすると漠然としていて何をして良いのか分からないが、専門的なことであれば、皆さんが元々持っている技術とか特技を活かして手が上がるものだと今回の要請講座を通じて感じました。

【埴コーディネーター】

人材育成は難しいところもありますが、進むところもあるのでチャレンジしているということですね。ありがとうございました。奥村さんお願いします。

【パネリスト 奥村 氏】

私も市の地域づくりワーキングに民生委員として参加しています。気づいたことは、行政中心ではいけないと感じました。1つの事業や活動を進めていくには、個人個人が主体をもってやらなければいけないと思いました。

【埴コーディネーター】

確かに、サロンの活動自体がそのことを物語っています。次、安藤さんお願いします。

【パネリスト 安藤 氏】

私は子どもがいますが、子どもたちの遊び場も含めて、地域で子どもからお年寄りまでが集えるような場所がいろいろなところがあれば良いなと思います。地区社協のことを発表しましたが、地区によっては児童公園というものがありますので、それを整備しています。そういう場所を通して人とひとが繋がり、顔の見える地域になると思います。

【埜コーディネーター】

地区社協は10地区と言っていました、地区によって需要も違いますし、人口構成も違います。世代間の交流は、社協さんは草の根的にやっています。そういう場が必要ということですね。

【埜コーディネーター】

私の方から、まだ伺いたいこともあります。パネリストへの質問は以上です。年に1回の大会ですので、せっかくですからフロアの方から、ご意見ですとか感想などをお願いします。会場を見渡すと男性が多いですね。

【パネリスト 安藤 氏】

先ほど奥村さんから男性の会員がいないという話がありましたが、今日は男性のいるサロンの方もいるようですので、ご意見を聴いてみたいです。

【埜コーディネーター】

男性が多いサロンと全くいないサロンとでは、男性のいるサロンは特徴ありますか。奥村さんご意見ありますか。

【パネリスト 奥村 氏】

サロンの代表者が男性であることが1つ特徴ではないかと思います。そうすると男性は参加しやすいのかなと思います。

【パネリスト 中村 氏】

役割があれば男性は参加するのではないかと思います。私もサロンに関わったことがありますが、おもてなしされる側だけでなく、指導側も含めてサロン参加者ですので、指導する側になって役割があれば男性が参加するのではないかと思います。

【埜コーディネーター】

サロンアジサイの代表で過去男性の方はいらっしゃいましたか。

【パネリスト 奥村 氏】

私の知る限りでは、女性です。

【埜コーディネーター】

女性は元気で強いということですね。会場の皆さんいかがでしょうか。



【質問者 A 男性】

サロンアジサイの奥村さんに質問です。感動する発表でした。200曲ある歌集を作り歌っているのが特徴ですが、演歌はありますか。またボランティアが9人いるということですが、今後も募集しますか。最後に会費などは集めていますか。よろしくお願いします。

【パネリスト 奥村 氏】

会場からも答えが聞こえましたが、演歌はあります。ボランティアですが、発足当時から元気な9人ですので募集を考えていませんでしたが、今後高齢化によって、ボランティアが参加者側になったときに、次の人に確実に引き継いで行きたいです。最後に会費ですが参加者及びボランティアすべて100円集めます。お茶代です。以上です。

【埴コーディネーター】

演歌はあるということで、男性会員が増えるかもしれないですね。他にご意見等どうぞ。

【質問者 B 男性】

社協の活動で、学校との交流は良かったと思います。先ほどサロンの代表者を男性にとり、役割を与えるという話がありました。私の地域では、入ると役員をやらされるからダメだと言う人もいます。困った問題です。

【埴コーディネーター】

問題を投げかけられました。会場の皆さんも考えてみましょう。男性からのご意見ですので会場の女性の皆さんいかがでしょうか。

【質問者 C 女性】

日影のすみれ会の会員です。すみれ会も男性会員はおりませんが、ボランティアをお願いしたら引き受けてくれた方がいました。七夕の時に、山から竹を切ってきてくれたりしました。こんなことはいかがでしょう。

【パネリスト 奥村 氏】

ご意見ありがとうございます。持ち帰って検討したいと思います。

【埴コーディネーター】

ボランティアをお願いします。良い意見でした。次ございますか。

【質問者 D 男性】

3人のパネリストの話をきいて、自分のためになりました。埴先生の話の中で行動様式の変化とありました。大月市民だけでなく、すべて一人ひとり個人の意識だとか認識を自分自身に働きかけて、自分自身で高めていかなければならないと思いました。そして、大月市で何が必要かという課題もいただきました。大月は空家が多いと聞いています。一方で空家を活用して活動をしたいという声も聴きます。空家も風を通さないとすぐに傷んでしまいます。市が窓口になって、空家の家主と借りたい人を繋げて活用していただきたいです。最後のサロンの話ですが、サロンに参加しなくても、各地区には



老人会や敬老会などの活動に参加している方々がおります。その人達は、サロンにも参加したり、片方だけだったりします。私の地区の場合、男性は、いきいきサロンの方がどこかに移動したい場合の運転手を務めるような手伝いをしています。

【埴コーディネーター】

ありがとうございました。安藤さんのお知り合いということで何かお話ありますか。

【パネリスト 安藤 氏】

地域によっては、サロンがなくても地域でお茶のみの場が成り立っていれば、外出の機会があったり、他にも趣味のサークルがあったりと、そういうところに出向いている方もいらっしゃると思います。社協の地域づくりでみれば、男性も女性もサロンに集い繋がりを持つことで、介護予防の観点からすると、サロンでなくとも週に何回か、いろんなところに出かける機会があれば、それでも構わないのではないかと感じました。

【パネリスト 中村 氏】

発表した内容に、地域づくりワーキングがあり、その中で空家を使ったらどうだ。という意見がありました。いろんな目的で空家の使い方があると思いました。地域づくりワーキングでも高齢者の居場所づくりとして、介護サービスやホームヘルパーなどの事業所ばかりではなくて、そういうところに行かなくても、いつでも行ける居場所を作って行こうという話になっています。大月市内には空家があるので、その活用方法についても意見が出ました。

【埴コーディネーター】

居場所づくり、空家対策はどこ自治体でも課題です。自分の持ち物を手放すと、周りから、あの人は手放したんだ。などと言われ、一步を踏み出せないでいる話を聞きます。地域で言われるのが嫌だから手放さないといった、精神面での問題もあります。結果、空家が増える訳です。空家対策や耕作放棄地などの問題は今後の大きな課題です。都市計画や土地利用の話も関わってきますので生涯学習や社会教育の領域だけでは問題は解決出来ない。一つのアイデアとして、空家の利用について意見がでました。会場の皆様との意見交換は以上といたします。



■ まとめ

【埴コーディネーター】

最後になります、私の方でまとめを述べて終了したいと思います。冒頭で申したとおり、生涯学習はチャレンジングであると述べました。もう少し掘り下げると、生涯学習とは何か？つまり主体は何かです。誰が生涯学習するのか。地域の問題に対して、地域という人はいません。そうすると誰が？

「個人」になります。地上いれば、どこでもそうです。結局個人です。これは利己的だとか自己中心的という意味ではありません。日本社会では個人というと、否定はしないけど個人主義と解されてしまいます。地域社会の輪を乱すなどの解釈が進みます。他人に迷惑をかけなければ何をしてもいいと言うのは、方法論的個人主義と言います。されど生涯学習は自発と多様の世界ですから、自分と向き合うことです。

次に画面を見て下さい。国民負担率の国際比較のグラフです。国民負担率とは言葉のとおり、国民がどれだけ税金を負担しているかです。グラフが高くなるほど政府にお金を預けているということになります。デンマークは67.8%です。政府をよっぽど信用しているのでしょう。100万円稼げば67万円政府に預けることになります。個人主義が薄められている、皆で負担しましょう（共助）ということになります。次にフランス、スウェーデンと下がってきますが、高い負担率です。いわゆる福祉国家になります。アメリカは31.1%で先進国の中で最も低いです。なるほど個人主義の国です。個人が大事で政府は出てくるなという国です。賛否ありますが自己責任ということもあり、個人が主体となるという意味では、アメリカは説得力があります。そのかわり税金は少なく納めます。あとは自由に使ってください。可処分所得といいます。

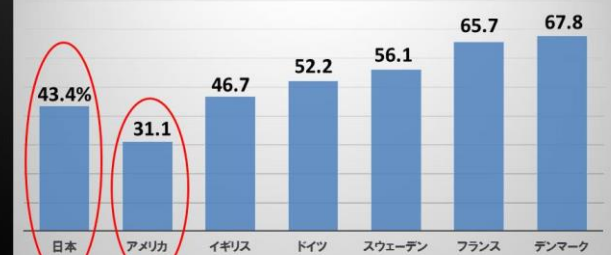
日本は43.4%と低い。意外と知られていません。アメリカに次いで個人負担の少ない国です。個人に構造的に相当ボールが投げられ

問)
「生涯学習」って何？
その究極の「主体」は、
何だろうか？

「個人」
である。

ところが、日本社会では、
「個人」と言うと、
「個人主義」と解され、
地域社会の輪を乱すの
では、と嫌う傾向が強い。

国民負担率の国際比較（単位：%）

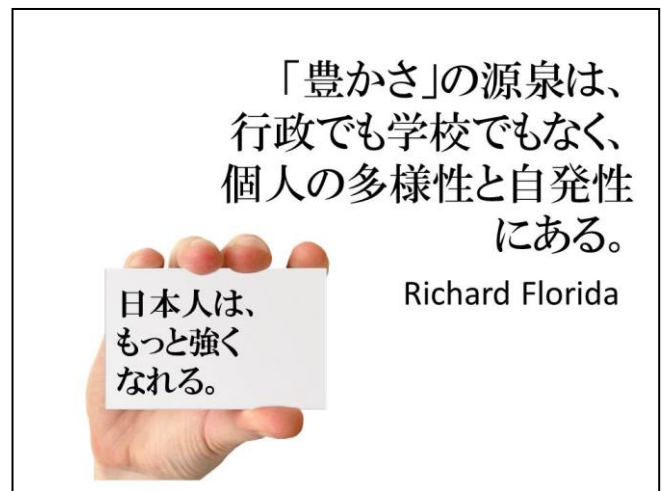
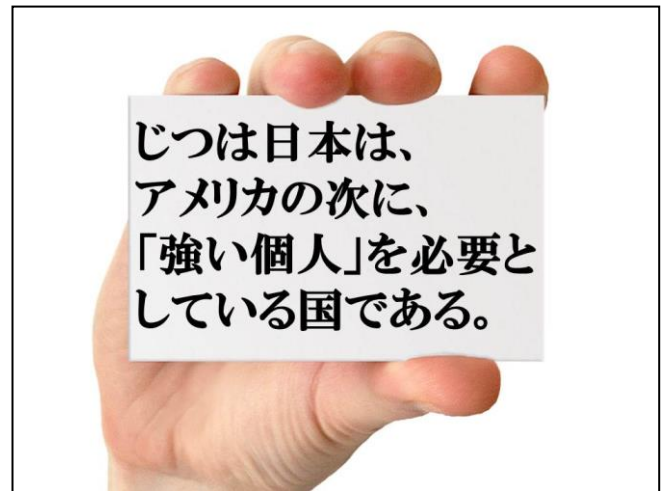


資料：OECD(2012)より作成。

「国民負担率」とは、国民がどれだけ税金＋社会保障の負担を負っているかを示すマクロ経済指標。
計算式(%)=(租税負担＋社会保障負担)÷国民所得(NI)

ています。ですから、まんざら個人主義という言葉は否定できないです。むしろ構造的にアメリカ並みに個人が主体となっている国なんです。どこかで国が、と思っている皆さんもいるかもしれませんが、統計は嘘をつきません。データで言えば、実は我が国または大月市民は、個人が頑張らなければならないことになっています。そういう意味ではアメリカの次に「強い個人」を必要としている国なんです。最後に、日本人はもっと強くならなければなりません。他の先進国に比べて国民負担率がグッと低いです。消費税も10%に、そして20%になるだろうと考えています。そういう意味では税負担は増えていきます。ですから、個人を強くして「強い個人」を作って、税に耐えるという社会を作っていくと生涯学習はもたない。

私の尊敬する都市経済学の専門家で、リチャード・フロリダという学者は、「豊かさ」の源泉は、行政でも学校でもなく、個人の多様性と自発性にある。と言っています。ですから、日本人、大月市民はもっと強くなっている訳です。そういう先頭に立って、大月モデルと言いますか、強い個人は大月にいる。変えるだけの力はあるよと言うような感覚で大月を変えていただきたい。人口減少問題も乗り越えていく。これも個人なんです。もし大月が次の段階に発展するときは個人が強くなっているときです。そういった考えで、アメリカの次に日本は小さな政府になっているんですから、強くなる余地はあるのではないかと思います。長くなりましたが私の最後の結びの言葉とさせていただきます。長時間お付き合いいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちましてシンポジウムを終了させていただきます。



第 54 回大月市生涯学習推進大会 〈アンケート用紙〉

お忙しいところ、ご参加くださりましてありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

◎ あなたご自身について教えてください。【該当するものに○印】

男性・女性 (10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上)

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他()

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. チラシ イ. 知人・友人からの案内 ウ. 市広報 エ. 学校からの案内
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他()

I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他()

II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他()

III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とても良かった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

(上記を選んだ理由：)

● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてもらいたい課題等)

ご協力ありがとうございました。

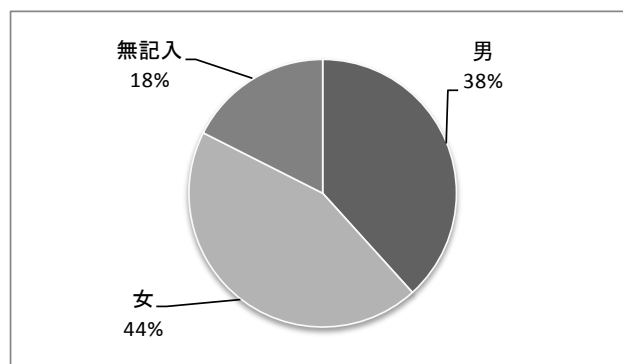
第54回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数：188
アンケート回収率：60%

◎ あなた自身について教えてください。

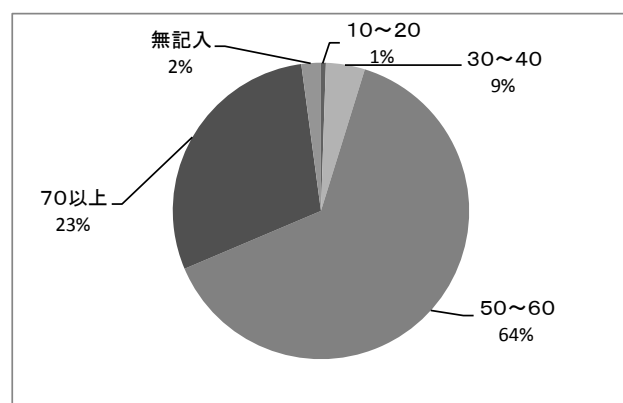
(性別)

男	72
女	83
無記入	33



(年代)

10歳代～20歳代	1
30歳代～40歳代	8
50歳代～60歳代	120
70歳以上	55
無記入	4



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	16
イ	勤め(全日)	30
ウ	勤め(パート・臨時)	19
エ	学生	0
オ	専業主婦	53
カ	無職	60
キ	その他	6
	無記入	4

■ 1) その他に当てはまり、記入された内容
農業、委員

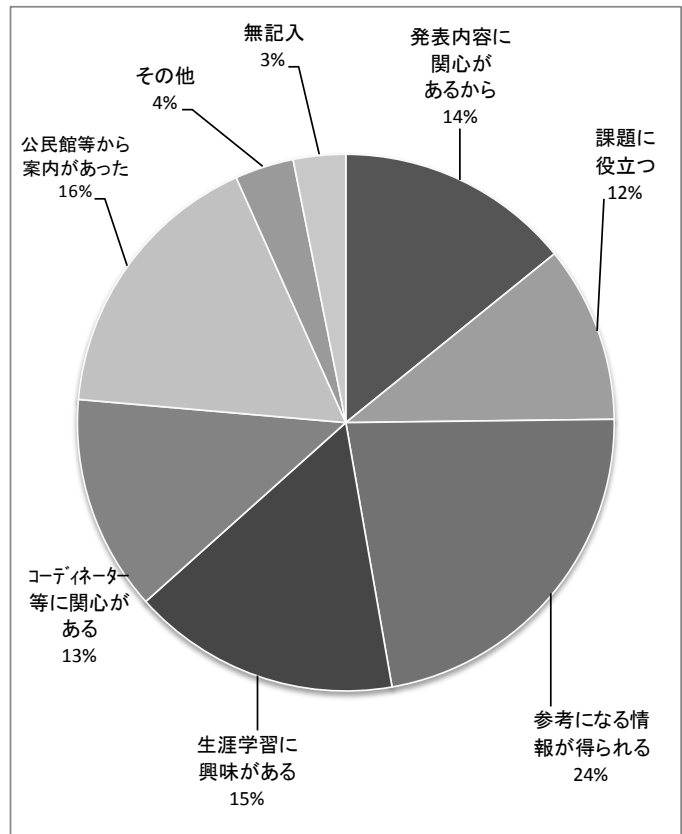
2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	チラシ	7
イ	知人・友人からの案内	24
ウ	新聞記事	21
エ	学校からの案内	0
オ	公民館からの案内	48
カ	所属団体からの案内	90
キ	その他	6
	無記入	3
	二つ回答	11

■ 2) その他に当てはまり、記入された内容
職場、役員、民生委員、サロン

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	36
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	27
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	57
④	生涯学習全般に興味があるから	41
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	33
⑥	公民館や学校等から案内があったから	43
⑦	その他	9
	無記入	8
	二つ以上回答	66

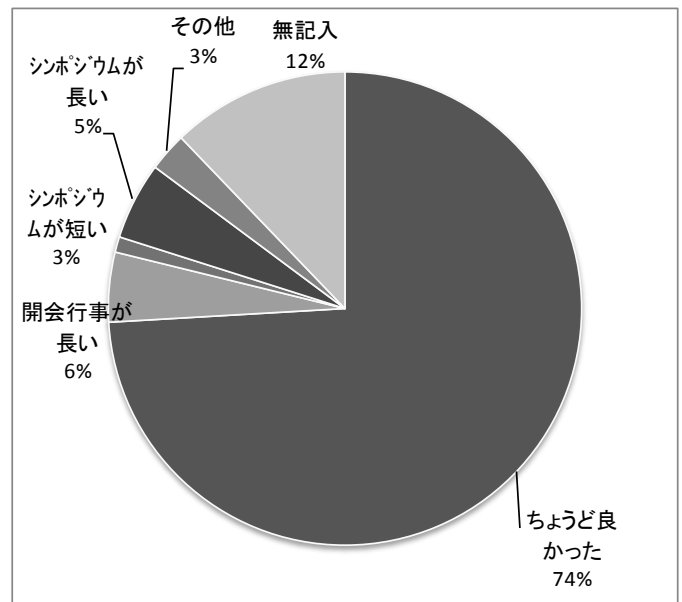


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 地域の役職で義務的
- ・ 自分のためになる
- ・ 団体からの動員

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	ちょうど良かった	140
②	開会行事が長すぎる	9
③	シンポジウムが短すぎる	2
④	シンポジウムが長すぎる	10
⑤	その他	5
	無記入	23
	二つ以上回答	2

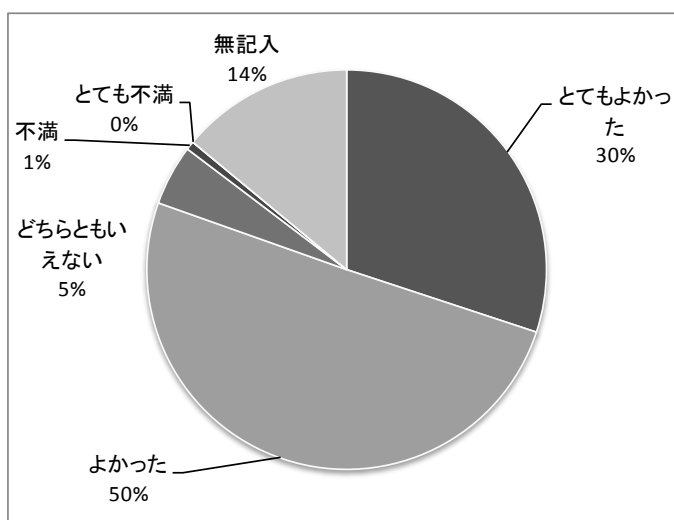


■その他に記入された内容

- ・ 午前中の開催を検討してほしい
- ・ 3月は忙しいので避けてほしい
- ・ 提言は良いが、解決策は何をすべきか。

Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

①	とてもよかった	43
②	よかった	72
③	どちらともいえない	7
④	不満だった	1
⑤	とても不満だった	0
	無記入	20



■ 上記を選んだ理由

・ 今の大会に必要な事は、地域から自分達の行動を始めることだと思う。
・ コーディネーターが上手だった。うまく発表者の意見を聴いていた。
・ 年齢的に無縁の事に触れることが出来た。
・ 生涯学習の意味を改めて認識した。
1人1人の前に進む1歩を踏み出す意味を高めることが大切。70才を前にサロンのボランティアに加わらせていただき、いかに地域の事を知らずに過ごしてきたか気づかされた。これを機に身近なサロン活動活性化に向けて協力したいと思う。
・ 大会の現状を知ることが出来た。
・ 地域福祉についての現状や介護の事を知ることが出来た。また、生涯学習について改めて考えることが出来た。
・ 3人のパネリストの発表から新しい情報、取組み、企画、展望等が少なく期待した内容ではなかった。
・ 内容が分かりやすかった。
・ 大会市が抱えている問題を多く取り上げた良い機会だと思う。
・ 今一番向き合わなければならない問題で良かった。
・ 地域の社協役員をやっているの、初心者の私にとっては非常に勉強になった。
・ 地域包括ケアシステムの関係が少し理解できた。
・ コーディネーターの進め方やまとめ方が良く、発表者の方々もわかりやすい発表だった。
・ いろいろな事が少しわかった。
・ 大会市の未来を真剣に考えているパネリストの方々の発表はとても良かった。
・ コーディネーターの”チャレンジ”という言葉が考えさせられた。
・ いきいきサロンの発表がもう少し欲しかった。男性の参加しているサロンがどのような活動をしているか知りたい。
・ 市の発表者は若いのに自分の仕事に努力していて感心した。私もチャレンジしなくてはいけないと思った。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 社協の活動もサロンの活動もお年寄りがいつまでも元気に暮らしてもらいたいという心意気が強く感じられた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンや地域包括ケアシステムの現状等をもっと知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、生きていく上で参考になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマと話題があっていたのかわからなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンの発表が具体的で理解を深めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの発表内容に共通性があった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の地域の活動に繋げたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の住む地域に合わせて出来る事を探す。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決のヒントを話してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設入所が大月は少なく、在宅を考えることも良いと思いますが、もっと具体的な話が欲しかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強になり、情報が得られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後どう生かしていくかが課題だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の高齢者等の状況がわかり、これから市民がどのように生きるか考えなければならないと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政と地域が連携を密にして一步一步着実に行動に移すこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が年を取ったとき不安があったが、ささえあい、助け合い、役割をもって地域活動を行いたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢社会へ移行する事は避けて通れない事なので少しでもより良い社会になるための勉強ができて良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少の現実を知った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の増えるスピードが速くびっくりした。健康に過ごすために頑張ろうと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマが最も関心のあるものだった。パネリストの発表内容が数字入りで分かりやすかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて参加しました。事業者だけでなく地域住民にも頑張っている人がいることがわかって良かった。自分のいる地域はどうだろうかと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習の意識が少し理解でき、勉強になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域参加への課題が少し見えた様に思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンの代表として他地域の様子が聞けて良かった。介護の方も参考になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ いつまでも介護保険を使わず、自分の健康は自分で守る大切さを感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人との繋がりがいかに大切かを再認識した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の地区でも高齢者の独り暮らしが多くなっています。地区役員としては3人のパネリストの内容は大変勉強になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般人には不満な内容でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に何が出来るのか、地域のために自分に何が出来るのか考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場担当者の実験の体験を聞く事ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政などの取り組みを知らなかった。

■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

<ul style="list-style-type: none"> 若者がいない。若い世代の人たちも参加できるような大会にしていく必要がある。市民全体で考えよう。行動しなければ未来は開けない。
<ul style="list-style-type: none"> 地域について考える機会となった。
<ul style="list-style-type: none"> 3人の活動が共通していて今後役立てて行ければいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムの発表が興味深かった。
<ul style="list-style-type: none"> 一番身近な問題でした。健康増進、心身ともに健康的に人とのつながりが保たれるよう、シンプルに個人、家庭、自治会、地域へと学ぶ輪が大きくなればいいと思う。サロンに限って言えば、交換会、各サロンのあり方、発表の場をもっと互いに増やす。
<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの必要性は分かったが、どんなボランティアがどこにあるのか分からない。
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習においても、自助・共助・公助が必要ですが、高齢者がこれからも大月市に住み続けたい希望77%を叶えるために、県内で「大月市が一番住みたいまち」となるよう将来像を示して欲しい。具体的施策を毎年目標に設定し、新しいことへ挑戦する。
<ul style="list-style-type: none"> サロンでの男性の参加増を考えたい。
<ul style="list-style-type: none"> 医療と介護の問題を取り上げて、両方の連携で問題を解決して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 都留市では高齢者住宅の建設に取り組んでいる。大月市でも今後このような住宅があれば大月で暮らしたいと思うようになる。
<ul style="list-style-type: none"> 若い方にも聞いてもらいたい発表でした。ボランティアを育てるために若い力が今必要だと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> 3人のパネリストの皆さんお疲れ様でした。埴先生はさすが専門化です、まとめの話が心に響きました。
<ul style="list-style-type: none"> 市として住民にもっと関心を持てるよう情報発信してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の実情をみて、これからの生活に非常に不安を感じた。
<ul style="list-style-type: none"> 小学校高学年生ぐらいの参加ができるようにならないか。
<ul style="list-style-type: none"> 時間が長い。サロンという名称になじめない。埴先生の話をもっと聞きたい。
<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンのボランティアをしています。サロンに参加することは、何よりも自分自身のためになっていると思います。
<ul style="list-style-type: none"> 「粋な心」に主催者がどんな期待を込めたのか説明がなかった。また、シンポジウムからも読み取れなかった。分かりやすいタイトルをつけるべき。
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少をどうしたら止められるのかを採り上げて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢になると歩行困難になる。サロンへ歩いていけない人の交通手段はないのか。最後に埴先生の話された国民負担率の説明が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 個人主義大歓迎です。
<ul style="list-style-type: none"> 地域にはサロンが必要であり、良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の居場所づくりをお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 世代間の役割や相互の助け合いについて採り上げて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動で一人ひとり自分と向き合い、自分に何が出来るのか考えたい。
<ul style="list-style-type: none"> ボランティアをするとポイントが付くシステムをどこかの市でやっていて助かっている老人がいる。そうやって老人の日常生活を助け合う。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場との対話で参加者の声をもっと出せるよう、事前の準備をした方が良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ このような生涯学習的な集会があれば参考にしたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目、耳が不自由ですが、なぜ前の席を空けるのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな団体をもっとよく活用していくことを考え、横の交流をもっと強くしていくことが大事だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身も生きがいややりがいを持つことは大切ですが、周囲の環境として、ここに生活して楽しい、良かったと思える市にして欲しい。高齢化率44%になると若者は残っていられるでしょうか。地域から子どもや若者がいなくなる市政をやっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市地域包括支援センターの活動は大切な事だと思う。その内容を必要としているのに知らない市民が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジすることは大事だと思います。良い勉強になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に高齢化は深刻だと感じました。2050年の肩車社会になったら大変なことだと思います。分かっていることなので早く人口増加ができる大月にしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 54回目となるらしいが、初めて参加した。地区の役員をしないと案内が来ません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内全般にわたって様々な事について採り上げ、そこからリーダーを多く育てるような内容。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各県ではふるさと納税があり、特産物がもらえる。大月は何もないと聞いている。ふるさと納税の活用。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政をもっと行動し、成果を市民に反映してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがいを持って地域活動のお手伝い出来るようになりたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大月市民として心豊かに生きるために何が出来るか」その言葉を聞いて意識しなければいけないと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私のサロンでは男性がゼロです。サロンの活動方法等を採り上げてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の内容を広報などで伝えて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーター・パネリストの応答が気持ちよかった。次回は、岩殿山・桃太郎伝説・猿橋の話題を採り上げて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のテーマは今の時代に合った問題点や投げかけとして一石を投じるものであった。改めて認識を強くした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少、高齢化のスピードが早くて困る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館活動の発表を一緒にしたらどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に元気で長生きしていただくことは大切ですが、今日の場にもっと若い人が参加するように働きかけが大事だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年に年齢構成が1/1になる。「粋な心」はそれが目的なのか。時の流れに流されるだけで対策がみえない。「地域の力」は改善する対策ではないのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の趣味を介護予防にしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンの存在すら知りませんでした。介護に役立つ情報を知りたくて参加しました。もっと市の情報を発信して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の健康維持のため積極的に行動していきたいと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンに男性が参加する方法を教えてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市内各地での活動状況、内容等の発表が欲しかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アトラクションの如月の会、楽しく聞きました。

第54回大月市生涯学習推進大会の様子

【市民会館1階 大ホール】



アトラクション 大型紙芝居「ふもと山のうわばみ」朗読：如月の会

【開会式】



開会
(中村 社教委会長)



主催者あいさつ
(飯高教育委員長)



励ましのことば
(石井市長)



来賓祝辞
(西室議長)



シンポジウム「見つめよう！地域のカ」～粋な心で豊かな暮らしを～



コーディネーター 埴 先生



3人のパネリスト



パネリストや会場との対話



社会福祉協議会 安藤 様



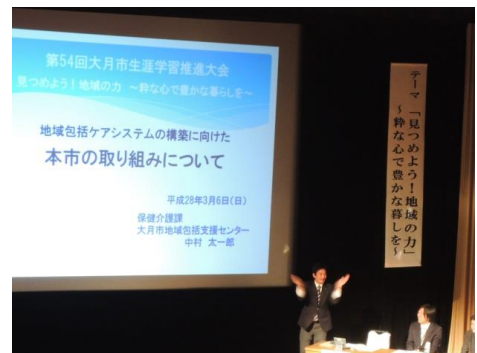
サロンアジサイ 奥村 様



閉会式
(加納 公連会長)



会場との対話



大月市保健介護課 中村 様

【1階展示室】



公民館や社会教育施設の活動展示

【1階ロビー】



大月大豆倶楽部さんの納豆販売



筏子町林業研究会さんの木工品販売

